



### 【アオキ(青木)】 *Aucuba japonica*

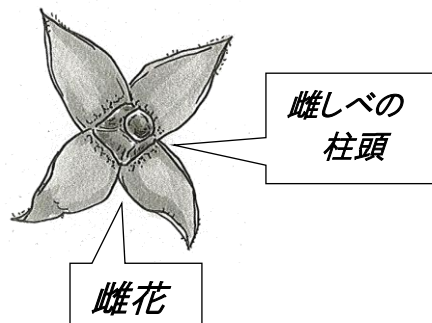
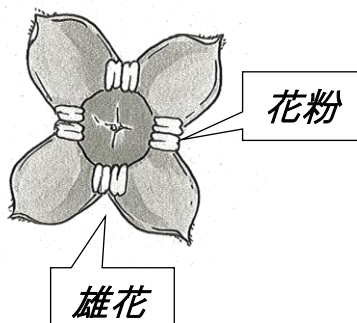
アオキは昔どの家にも1株はあった植物で、家の北側の外にトイシがあった時代、常緑で日陰に強いアオキは目隠しによく用いられました。

日本原産の低木で、学名に「日本の (japonica)」という種名が使われています。落葉樹が冬に向けて葉を落とすと、急に濃い緑の葉が目に入るようになります。特に赤い果実は美しく、冬の間目を楽しませてくれます。ただしアオキは雌雄異株で赤い果実をつけているのは雌株のみになるため庭に植えるときは、雌株と雄株が無いと果実がつかないでガッカリすることになります。実際、ヨーロッパでも緑の葉と赤い果実のコントラストに魅せられ導入されましたが、雌株だけだったために果実がつかないことがしばらく続きました。1860年にプラントハンターのロバート・フォーチュンが雄株を手に入れて持ち帰ることで、やっとアオキの赤い果実を見ることができるようになったようです。



アオキは幹や枝も緑色で、そこでも光合成ができるために日陰で育つことができます。葉は厚く光沢があり、斑入りの品種は庭木で人気があります。花は3月ごろから咲き始めます。雄株の花の方が花房が大きく先に咲き始めます。雄花も雌花もよく似ていて色は濃い紫色、暗い日陰の場所では華やかな花の色に集まる蜂や蝶に受粉してもらいにくいことから、アオキなど林床に生えて暗い色の花の植物はハエやキノコバエなどに受粉を手伝ってもらっているようです。受粉すれば1年をかけて果実を2cmほどの大きさに育てて赤くします。大きく赤い果実は暗いところでも鳥の目によくうつります。オナガやヒヨドリが食べてタネを散布してくれます。食べられずに残っている果実は、赤くならず大きくなっていません。これは果実のアオキミタネバエが卵を産み付けて幼虫が寄生したために成長が止まってしまったものです。赤くならないので鳥に食べられることもありません。また葉には毒が無いことからシカが多い森では食べられてしまい育たないようです。

どこで剪定してもよく芽が出て育てやすく、花と果実と一緒に楽しめる時期があります。民間薬の陀羅尼助(ダラニスケ)の丸薬の表面に照りをつけるのために、アオキの葉のエキスが使用されています。アオキを見かけたら一度、花を観察してみてください。



## 3月の花とみどりの講習会

### 【デンドロビウムの育て方】

日時：3月9日（土）10時～12時  
場所：花とみどりの相談所  
内容：デンドロビウムの育て方を学びます。  
講師：木村照雄さん（元同所相談員）  
費用：1,000円  
定員：24人  
申込：3月2日（土）9:15～ 電話可 先着順



### 【ブルーベリーの育て方】

日時：3月23日（土）10時～12時  
場所：花とみどりの相談所  
内容：育て方を学び、苗を植え付けします。  
講師：中川増一さん（元同所相談員）  
費用：1,500円  
定員：24人  
申込：3月16日（土）9:15～ 電話可 先着順



### 豊中緑化リーダー会写真展

開催日：令和6年3月21日（木）～22日（金）  
時間：午前10時～午後4時  
会場：豊中市役所第二庁舎1階ロビー  
内容：緑化リーダー会の活動報告  
地域の共同育苗グループの花壇写真  
「緑化リーダー養成講座」のご案内



### 花とみどりの相談

相談時間は、火曜日・木曜日の午後1時から4時30分までです。  
電話による相談も行っています。  
《3月の休所日》 毎週の日曜・月曜日と20日（水）です。



### 豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曾根南町1丁目4番1号（豊島公園内） 阪急宝塚線 曾根駅南 徒歩5分  
TEL 06-6863-8439 FAX 06-6863-3638